

『 肝臓と放射線 』

肝臓川柳

『 放射線 肝臓がん細胞 容赦せん 』



(肝臓細胞を容赦しないで、しっかり治療していく！)

福島原発事故の影響が続いており、連日報道がされています

人体は放射線の影響を受けますが、臓器によってやや感受性が異なります。

○ 血液を作る骨髄組織や生殖臓器や消化管 >>> 放射線に影響を受け易く

△ 脳や神経、筋肉や骨格 >>> 放射線に影響を受け難い

とされています

細胞分裂の盛んな臓器ほど、影響を受け易いのですが『肝臓』もその中に入ります。

肝臓に放射線がある程度当たると、

肝機能が低下し ⇒⇒⇒ 肝臓が萎縮してしまいます。

この作用を逆に利用して、肝臓癌に対して昔から放射線治療が注目されていましたが、

肝臓癌以外の正常部への影響が強く、長らく顧みられませんでした。

しかし、最近は画像装置の著しい発達や照射方法の改善により

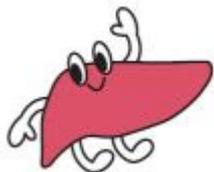
肝臓癌の部位だけに放射線を当てる工夫がされるようになり、

再び治療選択が広がりつつあります。

また通常の放射線療法で使用する電子より重い粒子を使用する

- 陽子線療法(照射臓器の中の方が効果が強く、癌の手前の正常部への影響が少ない)や
- 重イオン[炭素線]療法(強力なため、1回のみの照射で治療は終了する)も可能となっています。

まだまだ色々な解決すべき問題もありますが、肝臓癌のこれからの新しい治療法の一つとして再び注目を浴びています。 ★★ がんばろう東北！ がんばろう日本！ がんばろう肝臓！ ★★



これだけ覚えておけば損はない！

今回のポイント

肝臓は放射線の影響を受けやすい臓器ですが

治療においては技術の進歩により肝臓癌治療に応用されるようになり

肝臓癌治療の選択肢が広がりつつあります。

(文： 福井県肝疾患診療連携拠点病院協議会 野ッ俣 和夫)